

⑤ コメの輸出・輸入

コメ・コメ加工品の輸出実績

品目名		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2025年		(参考) 主な輸出先国・地域
							対前年比	1~2月	対前年同期比		
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	35,531トン	36,569トン	45,959トン	53,931トン	58,472トン	67,923トン	+16%	10,351トン	+18%	アメリカ 中国 香港 台湾 韓国
	金額	329億円	347億円	524億円	613億円	576億円	636億円	+10%	97億円	+19%	
コメ (援助米を除く)	数量	17,381トン	19,781トン	22,833トン	28,928トン	37,186トン	45,112トン	+21%	6,961トン	+21%	アメリカ 香港 シンガポール 台湾 タイ
	金額	46億円	53億円	59億円	74億円	94億円	120億円	+28%	20億円	+30%	
米菓 (あられ・せんべい)	数量	4,033トン	4,222トン	5,141トン	4,523トン	4,565トン	4,656トン	+2%	558トン	-15%	アメリカ 台湾 香港
	原料米換算	3,428トン	3,589トン	4,370トン	3,845トン	3,880トン	3,958トン	+2%	474トン	-15%	サウジアラビア シンガポール
	金額	43億円	45億円	56億円	55億円	61億円	66億円	+8%	8億円	-15%	
日本酒 (清酒)	数量	24,928 キログラム	21,761 キログラム	32,052 キログラム	35,894 キログラム	29,194 キログラム	31,056 キログラム	+6%	4,841 キログラム	+18%	中国 アメリカ 香港 韓国 台湾
	原料米換算	14,041トン	12,257トン	18,054トン	20,218トン	16,444トン	17,493トン	+6%	2,727トン	+18%	
	金額	234億円	241億円	402億円	475億円	411億円	435億円	+6%	66億円	+20%	
パックご飯等	数量	1,018トン	1,205トン	1,129トン	1,384トン	1,593トン	2,298トン	+44%	343トン	+23%	アメリカ 台湾 香港 シンガポール 中国
	原料米換算	535トン	634トン	594トン	727トン	837トン	1,208トン	+44%	180トン	+23%	
	金額	5億円	7億円	6億円	8億円	10億円	14億円	+44%	2億円	+51%	
米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量	118トン	249トン	88トン	173トン	101トン	123トン	+22%	7トン	-67%	アメリカ ドイツ ロシア 台湾 シンガポール
	原料米換算	146トン	308トン	108トン	213トン	125トン	152トン	+22%	9トン	-67%	
	金額	0.3億円	0.7億円	0.6億円	1.0億円	0.8億円	1.1億円	+43%	0.1億円	-42%	
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品	数量 (原料米換算)	18,062トン	20,723トン	23,535トン	29,868トン	38,148トン	46,472トン	+22%	7,150トン	+21%	アメリカ 香港 シンガポール
	金額	52億円	60億円	66億円	83億円	105億円	136億円	+29%	23億円	+32%	台湾 タイ

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注1：米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。

注2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。

注3：「(参考) 主な輸出先国・地域」は2025年1～2月の輸出金額上位5か国・地域を記載。

商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移

○ 2024年のコメの輸出数量は対前年比21%増の45,112トン、輸出金額は対前年比28%増の12,029百万円

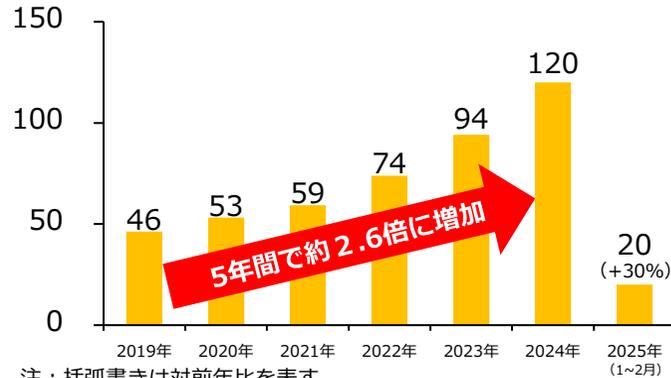
	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年		2024年		2025年 (1~2月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円										
輸出合計	17,381 (+26%)	4,620 (+23%)	19,781 (+14%)	5,315 (+15%)	22,833 (+15%)	5,933 (+12%)	28,928 (+27%)	7,382 (+24%)	37,186 (+29%)	9,411 (+27%)	45,112 (+21%)	12,029 (+28%)	6,961 (+21%)	2,014 (+30%)
香港	5,436	1,372	6,978	1,796	8,938	2,118	9,880	2,344	11,301	2,630	13,474	3,267	1,757 (+3%)	458 (+10%)
アメリカ	1,980	543	1,989	565	2,244	625	4,459	1,169	6,883	1,768	8,784	2,527	1,619 (+56%)	513 (+67%)
シンガポール	3,879	802	3,696	785	4,972	1,025	5,742	1,201	5,593	1,153	6,406	1,353	954 (+3%)	203 (+2%)
台湾	1,262	411	2,004	622	1,907	575	2,532	716	3,116	877	3,577	1,016	459 (+50%)	136 (+61%)
カナダ	158	51	205	62	210	69	382	104	1,629	394	2,138	546	330 (+21%)	97 (+32%)
タイ	578	145	555	145	625	162	1,045	256	1,299	307	1,787	461	406 (+54%)	111 (+65%)
オーストラリア	770	233	1,074	334	893	283	1,245	390	1,204	386	1,351	460	224 (+2%)	84 (+15%)
イギリス	450	131	451	131	332	104	526	162	587	193	853	290	124 (-15%)	46 (-7%)
ドイツ	140	52	144	58	185	68	239	81	582	186	867	269	111 (+1%)	37 (+5%)
スペイン	31	12	7	4	13	10	87	28	544	135	675	182	134 (+72%)	39 (+84%)
アラブ首長国連邦	55	23	58	25	96	45	130	49	389	116	487	172	89 (+13%)	30 (+22%)
フランス	93	40	112	49	173	72	237	93	395	135	473	172	106 (+56%)	38 (+62%)
その他	2,549	805	2,508	739	2,245	778	2,424	789	3,664	1,131	4,240	1,316	648	223

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注1：2024年1~12月の輸出金額上位国・地域を記載。
注2：（ ）内は対前年同期増減率である。
注3：「-」は貿易統計上、実績が計上されていないことを示す。

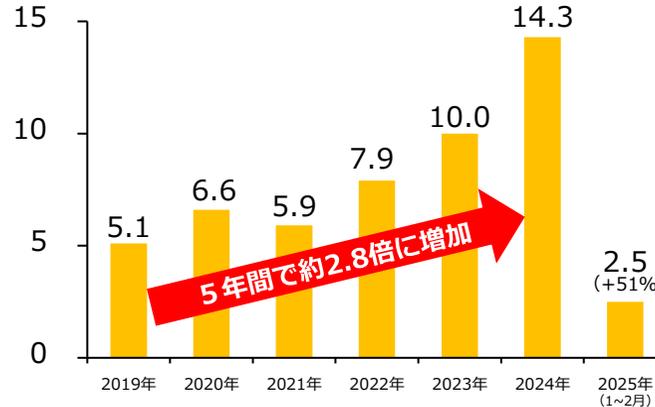
コメ・パックご飯等・米菓の輸出実績の推移

- コメについては、米国や香港等において、日本産米を扱うおにぎり屋や寿司店等の日本食レストランの増加等、外食向けを中心に需要が増加。2024年の輸出額は120億円（対前年比+28%）となり、直近5年間で約2.6倍に増加。
- パックご飯等については、アメリカを中心にEC・小売店等からの需要が増加。2024年の輸出額は14.3億円（対前年比+44%）となり、直近5年間で約2.8倍に増加。
- 米菓については、台湾を中心に小売店等からの需要が増加。2024年の輸出額は66億円（対前年比+8%）となり、直近5年間で約1.5倍に増加。

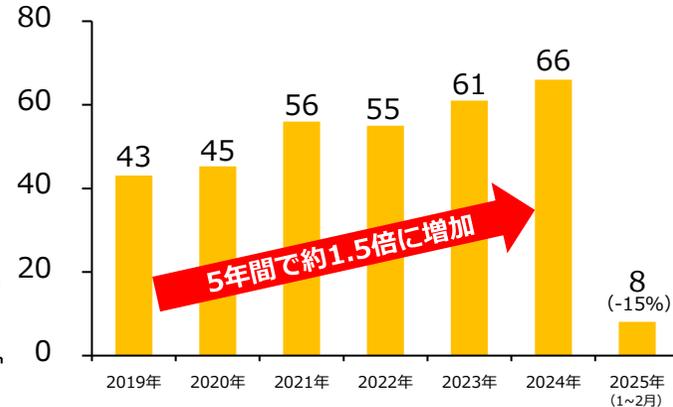
● コメの輸出実績
(単位：億円)



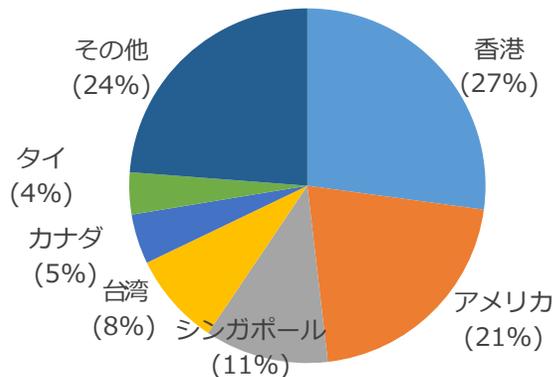
● パックご飯等の輸出実績
(単位：億円)



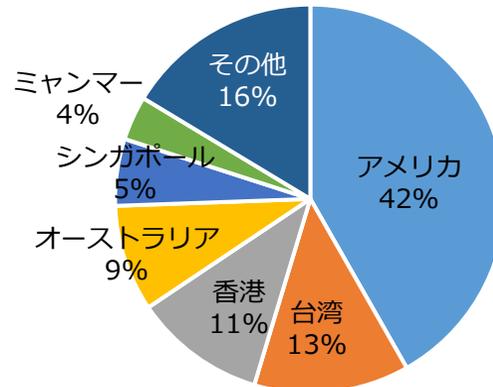
● 米菓の輸出実績
(単位：億円)



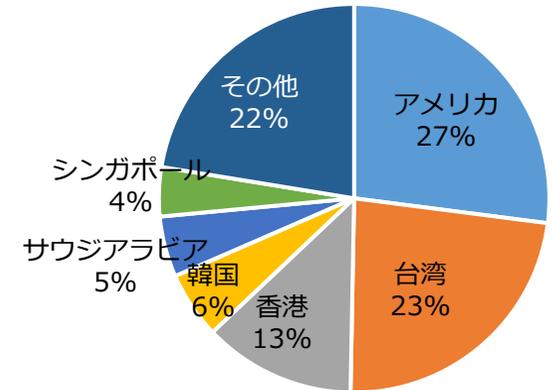
■ コメの輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2024年)



■ パックご飯等の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2024年)



■ 米菓の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2024年)



※資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

- 政府の輸出額目標（2025年までに2兆円、2030年までに5兆円）達成には、**成長する海外市場で稼ぐ方向への転換**が必要。本戦略は農林水産事業者の利益拡大と輸出拡大を実現するために策定（令和2年12月農林水産業・地域の活力創造本部決定、令和5年12月最終改訂）
- 輸出拡大には、**海外市場で求められるスペック（量・価格・品質・規格）の産品を専門的・継続的に生産販売**する体制（プロダクトアウトからマーケットインへの転換）が必要
- 本戦略では、**3つの基本的考え方**に基づいて政策を立案

3つの基本的な考え方と具体的施策

1. 日本の強みを最大限に発揮するための取組

- 海外で評価される日本の強みがある**輸出重点品目**（現在**29品目**）を選定し、**各品目でターゲット国・地域と輸出目標を設定**
- 輸出重点品目についてオールジャパンによる輸出促進活動を行う**認定品目団体の取組の強化**
- 輸出先国・地域に**輸出支援プラットフォーム**を設置し、現地で輸出事業者を専門的・継続的に支援

2. マーケットインの発想で輸出にチャレンジする事業者の支援

- リスクを取って輸出に取り組む**事業者の投資への支援**（公庫融資、税制特例等）
- **マーケットインの発想に基づく輸出産地・事業者の育成・展開**
- **地域ぐるみの生産・流通の転換による輸出産地の形成を支援**するとともに、「**フラッグシップ輸出産地**」（仮称）を選定し支援
- **輸出人材の育成・確保**
- 輸出を後押しする農林水産事業者・食品事業者の**海外展開の支援**

3. 政府一体となった輸出の障害の克服

- 輸出先国・地域における**輸入規制の撤廃・緩和に向けて政府一体となった協議**を実施
- 輸出加速を支えるため、**輸出証明書発行や施設認定など輸出先国・地域の規制への対応**について、政府一体となって体制整備
- 我が国の強みである、優れた品種や技術、特有の食文化等の**知的財産を守り「稼ぎ」に変えるための知的財産対策の強化**

農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略 品目別輸出目標「コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品」

1. 国別輸出額目標

国名	2019年実績	2025年目標	国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策
合計	52億円	125億円	
香港	15億円	36億円	<ul style="list-style-type: none"> 輸出事業者が日系中食・外食を中心に需要を開拓しており、今後もレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る 現地系小売やレストランチェーンの深掘りにより、更なる市場開拓を図る
アメリカ	7億円	30億円	<ul style="list-style-type: none"> 西海岸・東海岸では輸出事業者が日系小売店需要を開拓。今後は日本食レストラン、おにぎり店等や現地系、EC等の小売需要を開拓。現時点では進出がないが、人口が増加しており、日本食レストランの大幅な増加も期待される中部では、新たな市場として需要開拓を図る パックご飯や米粉の主要な輸出先国であり、更なる市場開拓を図る
中国	4億円	19億円	<ul style="list-style-type: none"> 大手米卸等が日系外食店やEC、ギフトボックス等の贈答用に対応しており、更なる開拓を図る コスト削減のためには指定精米工場等の活用に加えて工場等の追加や輸入規制の緩和が不可欠
シンガポール	8億円	16億円	<ul style="list-style-type: none"> 輸出事業者が日系中食・外食を中心に需要を開拓。更にレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る 現地系小売やレストランチェーンの深掘りにより、更なる市場開拓を図る
台湾	5億円	9億円	<ul style="list-style-type: none"> 輸出事業者が日系中食・外食を中心に需要を開拓 現地でジャボニカ米が生産されていることから、日本食レストランでの日本産米採用による他店舗との差別化により需要開拓を図る
その他	13億円	14億円	<ul style="list-style-type: none"> UAEや欧州、カナダ等のコメを主食としない地域では、寿司等の日本食需要拡大に合わせて日本産米の需要開拓を図る EU、英国を中心に拡大するグルテンフリー需要の取り込みを通じた米粉・米粉製品の需要開拓を図る

2. 輸出産地の育成・展開

<輸出産地数>

- 30～40産地（先進的なJA等をモデル産地として、千トン超の輸出用米の生産に取り組む産地を育成する）

<今後育成すべき国内産地>

- 国際競争力を有するコメの生産と農家手取り収入の確保の両立を図ることで、大ロットで輸出用米を生産・供給する産地

<生産基盤の強化やロットの拡大、産地間連携の実現に向けた方策>

- 輸出事業者と産地が連携して取り組む、多収米の導入や作期分散等の生産・流通コスト低減の取組の支援により、輸出用米の生産拡大（主食用米からの作付転換）を推進
- 都道府県やJAグループとの連携などにより、更なる輸出産地の強化や掘り起こしを推進

3. 加工・流通施設の整備

- パックご飯メーカーや米粉・米粉製品メーカーが輸出に取り組んでいるが、輸出先国・地域の規制等への対応が必要になるケースがあることから、当該規制等対応のための取組や輸出向け生産に必要な機械・設備の導入等を支援
- 国内流通も含め、低コスト化や作業効率の改善につながる産地から精米工場への推奨フレコンによる出荷や鉄道へのモーダルシフトを推進

4. 品目別団体を中心とした販路開拓

- （一社）全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）が策定した「中期計画」に基づく、主要輸出先国・地域での新たな購買層の深掘りや輸出事業者の進出が不十分な国・地域（UAE・欧州等）での市場開拓のための、輸出先国・地域のマーケット情報の収集・発信、プロモーション活動を実施。実施に際しては、他の品目団体や輸出支援プラットフォームとも連携。プロモーションの財源には、国庫補助金のほか会費収入も一部活用
- 日本産米に対する理解を進めるため、輸出支援プラットフォームとも連携して、消費者と事業者に対し、日本産米の多様性や特徴をPRするなど、マーケットに応じた訴求を図る

<戦略的サプライチェーンの構築>

- 国別地域別の特色を踏まえたマーケティング戦略の下での現地商流を構築するため、現地エージェントによる現地系スーパー・レストランの販路開拓
- 輸出先国の需要に対応するため、輸出事業者や産地が連携して輸出用米を生産・調整する体制を構築

全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）の概要

- 米・米関連食品の海外需要の開拓・拡大のため、オールジャパンでの輸出を促進する全国団体（一般社団法人全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸））を平成27年8月13日に設立。
- 令和4年12月5日付けで輸出重点品目「**コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品**」の認定品目団体（※）として認定。
（※品目団体の認定制度は、輸出促進法に基づき、輸出重点品目ごとに、生産から販売に至る関係者が連携し輸出の促進を図る法人を、その申請に基づき、**所管大臣が認定品目団体として認定するもの。**）

○目的

- (1) 我が国の良質な米・米関連食品の海外での需要の開拓・拡大を図り、世界のマーケットに届けるため、オールジャパンで取り組むべき共通課題の洗い出し・解決に向けた協力体制を構築すること。
- (2) 米、米関連食品輸出の拡大を通じて、我が国のコメ生産者の所得向上に資すること。
- (3) 米、米関連食品の輸出拡大に向けて、協議会会員間の相互の情報収集、共有を通じ、各種連携を促進し、必要に応じて輸出事業の共同展開に資すること。

○代表理事：木村 良（きむら りょう）

○会員数：96（令和7年3月31日現在）

コメ輸出事業者、生産者団体等：52（クボタ、全農、神明、木徳神糧、千田みずほ、ホクレン等）、蔵元等：17、米菓メーカー等：8、パックご飯メーカー等：11、米粉メーカー等：10、その他：8（食品機器メーカー、外食事業者等）

※一部重複があるため、合計の会員数と一致しない。

○問い合わせ先（事務局）

ホームページ <https://zenbeiyu.com/jp/>

電話番号：03-5643-1720 FAX：03-5643-1721

メールアドレス jimukyoku@zenbeiyu.or.jp

所在地：東京都中央区日本橋小伝馬町15-15 食糧会館 6F



農林水産大臣から認定証を授与される木村理事長（中央）



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。

全米輸による海外需要開拓の取組例①

ANUGA2023への出展及び商談(ドイツ)(2023年10月)

欧州最大級の食品見本市であるANUGA2023のJETROジャパンパビリオン内に全米輸ブースを出展(来場者数:約14万人、出展社数:7,850社)。各社商品の試飲・試食に加え、「全日本カレー工業協同組合」と連携して、日本産米を使用した日本式カレーの提供も実施。

見本市終了後も、全米輸独自で商談会を開催し、試飲・試食のほか、日本産米・米関連食品の魅力についてのセミナーを実施。



▲展示会会場の様子



▲日本産米を使用した日本式カレーの提供

サウジアラビアにおけるプロモーションイベント(2023年12月)

サウジアラビアにおいて、現地事業者を招待したプロモーションイベントの実施や個社への訪問を通じた商談を実施。

プロモーションイベントの試食会では、JETROリヤド事務所と連携して、日本産水産物を活用した日本産米の試食メニューも提供。事業実施後も更なる成約獲得に向けて、フォローアップを実施。



▲プロモーションイベントの様子



▲日本産水産物コラボの試食メニュー
(小俵おにぎりとマグロガーリックバター)

Winter Fancy Food Show 2024への出展(アメリカ)(2024年1月)

アメリカ西海岸最大級の高級食品見本市であるWinter Fancy Food Show 2024に出展(前年の同見本市の来場者数:約13,000人、出展社数:約1,100社・団体)。全米輸ブースをJETROのジャパンパビリオン内及びその隣接ブースに配置することで、現地バイヤーを効果的に誘客。

コメについては、アメリカ向けのほか、カナダやメキシコ向けにも引き合いがあり、また米菓は、現地系バイヤーに焦点を絞った商品開発やPB商品化の提案等が好評を得た。



▲ブースでの商談の様子



▲展示会会場の様子

全米輸による海外需要開拓の取組例②

日本産コメ・コメ加工品輸出ハンドブック(2023年度)

全米輸では、海外におけるコメ・コメ加工品の消費・流通等のマーケット情報や、関税や検疫制度等の規制情報を掲載したハンドブックを作成(第1版 2016年度発刊)。最新の情報を反映させるとともに、新たにサウジアラビア、イスラエル及びメキシコを加え「令和5年度版 日本産コメ・コメ加工品輸出ハンドブック」(対象:19か国・地域)を作成。

作成したハンドブックは、日本産コメ・コメ加工品の輸出に取り組んでいる事業者や、これから取り組む事業者が広く活用できるよう全米輸HPに掲載。



▲ ハンドブック

パックご飯の市場開拓実証事業(2023年度)

台湾・香港・アメリカの日本産米パックご飯販売店及びこれまでパックご飯の取扱がない小売店において、すし酢付きパックご飯として消費者に提案することで、購入意欲に影響があるかを実証。調査においては、「パックご飯で自分好みの寿司を作る」というコンセプトを提示し、コンセプトに対する消費者の受容性や購買意欲を把握。

パックご飯に対する認知度は高いものの、購入経験率は低く、パックご飯を使った日本食メニューの提案をすることで、購買意欲が増加するという結果となった。現地系消費者へのパックご飯の需要拡大に向けて、この結果を今後のプロモーション等に反映できるよう、会員企業にフィードバックを実施。



▲パックご飯に添付したすし酢

消費者向けサイトの制作(2023年度)

海外の消費者に対する日本産コメ・コメ加工品の認知度獲得を狙い、消費者向けWEBサイトを制作。日本産コメ・コメ加工品の「『おいしい』を伝える」をコンセプトに、「レシピ」「シェフの話」等多様なコンテンツを多言語(英語・中国語(繁体字)・日本語)で掲載。

また、香港、アメリカ、シンガポールの消費者向けには、検索エンジンやSNS上でオンライン広告を実施し、同WEBサイトへの誘客を進めている。



▲ WEBサイト

コメ海外市場拡大戦略プロジェクト①

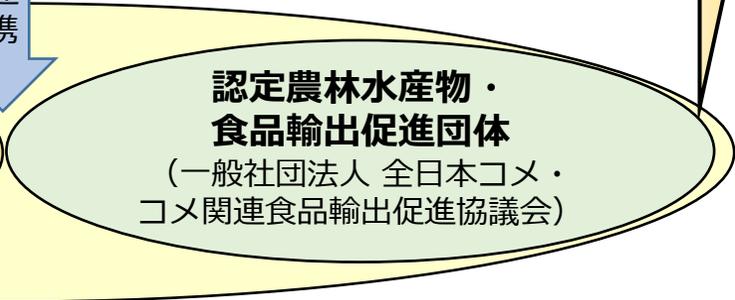
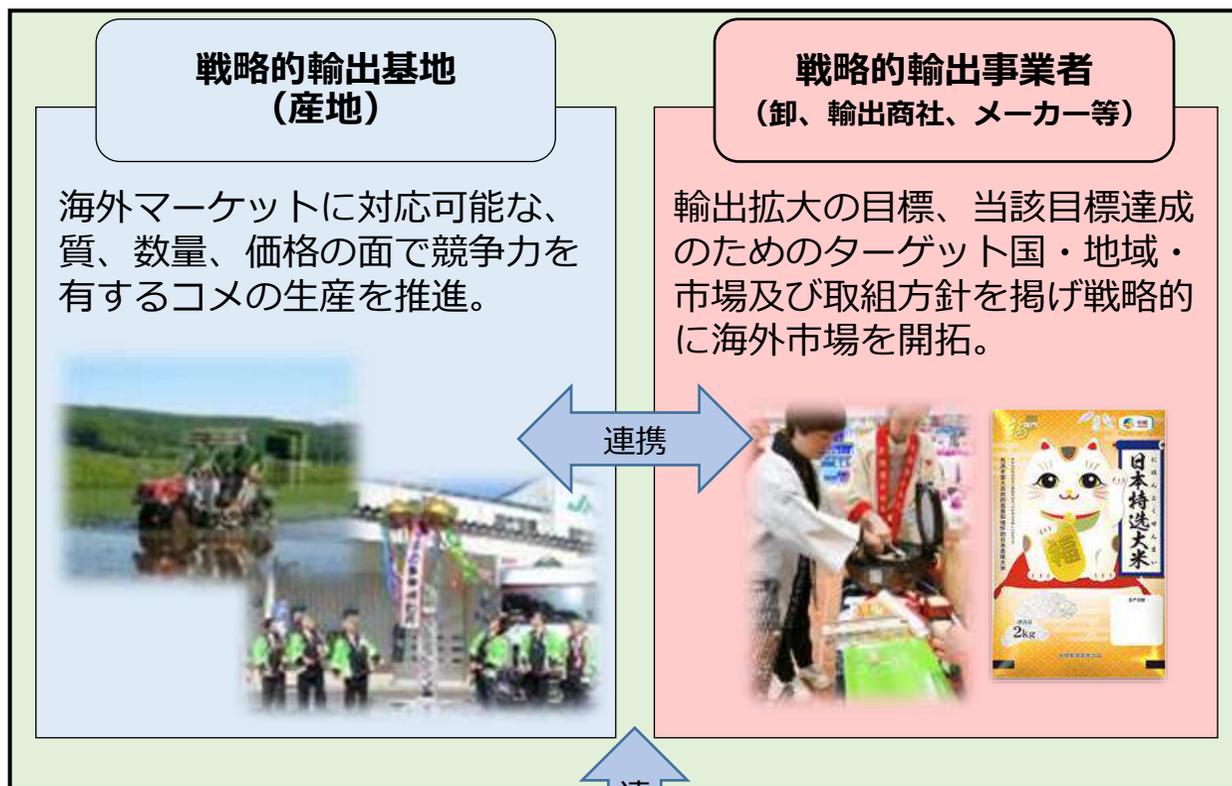
- 「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」は、コメの輸出量を飛躍的に拡大すべく、平成29年9月に立ち上げ。
- 本プロジェクトは、目標及び取組方針を掲げてコメ・コメ加工品の輸出拡大に取り組む事業者・産地が参加可能なプラットフォームであり、参加者への支援を実施。

《国による支援》

- ・ 戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地（産地）等が連携して実施する取組を後押し
- ・ （新たに）輸出に取り組む事業者・産地に対するマッチング・相談等サポート

輸入規制についての情報発信

支援



産地と輸出事業者が一体となったマーケットイン型の海外需要開拓

輸出目標の達成に向けた
コメ・コメ加工品輸出の飛躍的増加

コメ海外市場拡大戦略プロジェクト②

- 現在までに126の戦略的輸出事業者、167の戦略的輸出基地が2025年の輸出目標と目標達成に向けた取組方針を設定。（戦略的輸出事業者による目標数量合計：約17.2万トン(原料米換算)）
- 参加事業者に対して、戦略的輸出事業者が産地と連携して取り組むプロモーション等に対する支援、戦略的輸出事業者と産地のマッチングの推進や海外規制動向のタイムリーな情報発信等の施策を通じて輸出を強力に後押し。

戦略的輸出事業者参加状況（2025年3月31日時点）

126事業者（目標数量合計：17.2万トン※）

- 主な戦略的輸出事業者（輸出目標上位5事業者を抜粋）

戦略的輸出事業者	輸出目標	重点国・地域
JA全農	コメ：50,000トン パックご飯：200万食	中国、北米、EU、アジア等
(株)神明	コメ：10,500トン パックご飯：100万食 米粉・米粉製品：100トン	中国、アジア、EU等
(株)クボタ	コメ：10,000トン	米国等
全農インターナショナル(株)	コメ：10,000トン パックご飯：100万食	中国、北米、EU、アジア等
木徳神糧(株)	コメ：6,000トン	中国、香港、北米、EU、東南アジア（シンガポール・タイ等）、ブラジル、アジア等

※ 原料米換算。輸出事業者の目標の積み上げであり、重複して計上される場合もある。

戦略的輸出基地（産地）参加状況（2025年3月31日時点）

- (1) 団体・法人 158産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 8団体（JA全農県本部、経済連）
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1団体（JA全農）
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

- 主な戦略的輸出基地（令和3年産輸出用米生産実績上位5産地を抜粋）

【団体】

【農業法人】

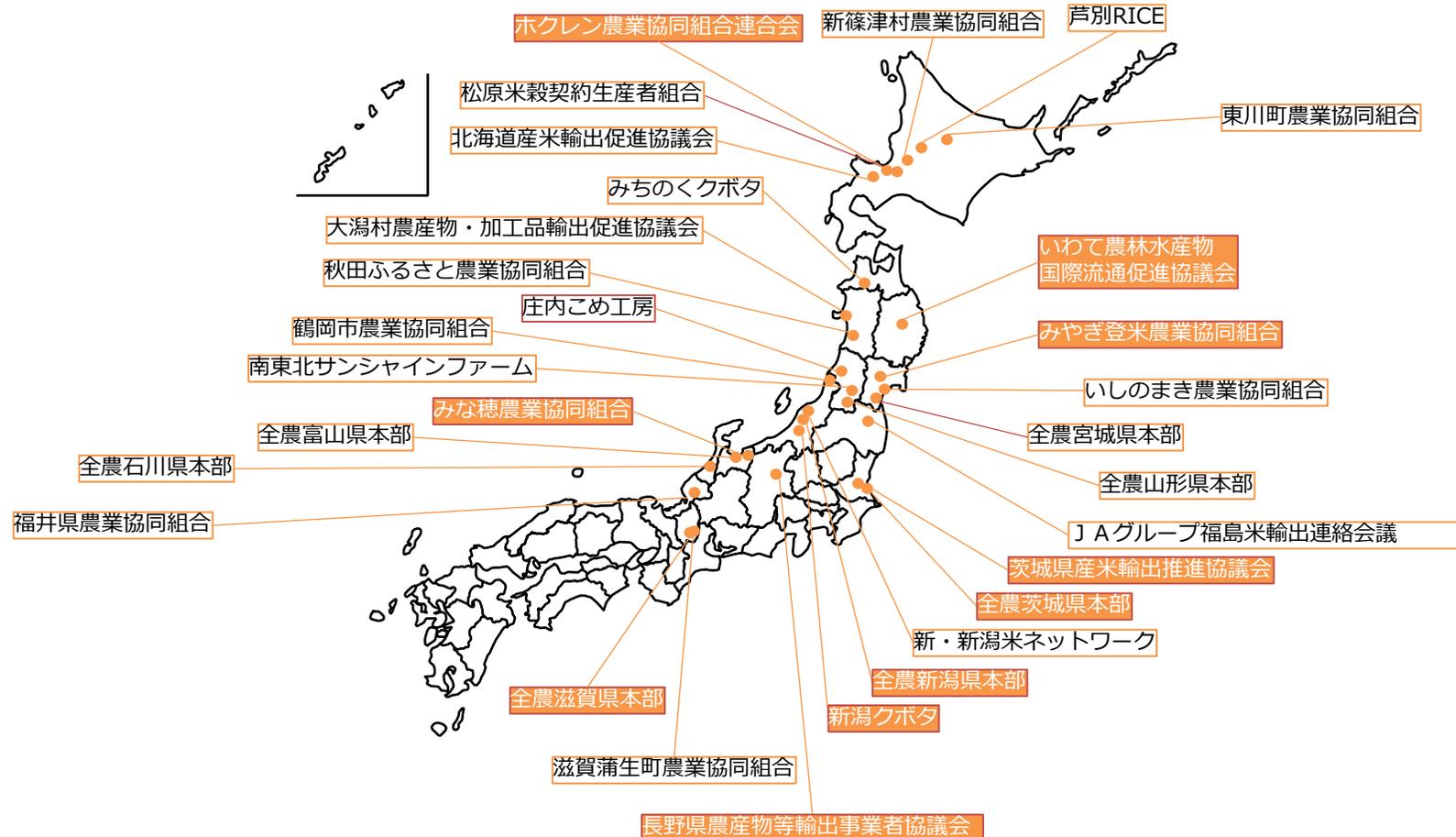
都道府県	戦略的輸出基地	都道府県	戦略的輸出基地
新潟県	JAグループ新潟 米輸出推進協議会	新潟県	(株)新潟クボタ
宮城県	JAみやぎ登米	青森県	(株)みちのくクボタ
岩手県	JA岩手ふるさと	北海道	(株)芦別RICE
茨城県	茨城県産米輸出推進協議会	山形県	(株)庄内こめ工房
福井県	JA福井県	北海道	(株)松原米穀 契約生産者組合

主なコメの輸出産地①

○ コメの輸出を更に伸ばすためには、コメの輸出量の9割を占める「モデル輸出産地」（「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」でリスト化した年間1,000トン超のコメ輸出を目標とする産地）を中心に、低コスト生産等の取組を支援し、競合する他国産米との価格競争力を高めていく必要。

モデル産地（30産地）（令和6年11月末現在）

- モデル輸出産地で、令和5年のコメの輸出量約37,000トンの9割をカバー。
- 年間1,000トン超の実績のある産地は10産地（オレンジ色の産地）。
- それらの産地では、多収性品種の導入等による低コスト生産と大ロット安定供給できる産地形成が実現されているところ。



注) モデル産地の輸出量の割合は、各産地から聞き取った実績を積み上げたものを基に計算。

主なコメの輸出産地②

ホクレン農業協同組合連合会

【取組内容】

国内需要への安定供に取組む一方で、将来的な国内需要の減少傾向を見据え、平成27年からコメの輸出を開始。

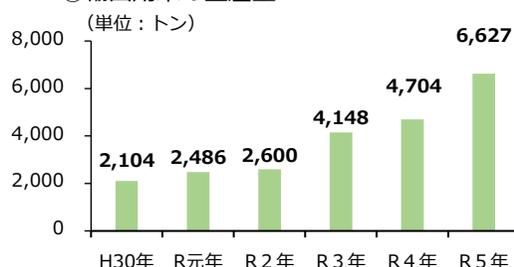
食味等の品質バランスへの影響も考慮しながら、**直播栽培の拡大や多収品種の開発・普及**により生産コストの削減に継続的に取り組むことと、北海道米の良食味のアピールと認知度向上の取組により、輸出拡大を推進。

【生産実績】

令和5年の生産量は6,627トンで、台湾、香港、中国、シンガポール、タイ等に輸出。



○輸出用米の生産量



みやぎ登米農業協同組合

【取組内容】

「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、つきあかり等の**多収性品種の導入**と併せて、**耕畜連携による堆肥の有効活用**を図り**低コスト生産を推進**。

輸出用米の生産者数が増加（H30年235人→R5年532人）。



【生産実績】

R7年度の目標として掲げていた3,000トンをR3年度に達成。

令和5年の生産量は3,563トンで、香港、米国、シンガポール等に輸出。

○輸出用米の生産量



新篠津村農業協同組合

【取組内容】

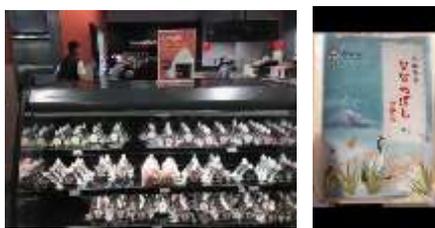
健康や安全・安心に対する関心が強まり、クリーン農業への期待は一段と高まってきているため、安全・安心で美味しい農産物の供給に向けて、**組合員全員が栽培履歴の記録**を行うとともに、化学肥料や農薬の使用を減らすための取組を推進。土づくりについても、**稲わらの堆肥化**を図るなど、環境との調和に配慮。

生産コストの低減のため、**直播品種の導入**や、**ドローンなどのスマート農業機器の活用**による労働時間の削減や生産の省力化等の取組を推進。

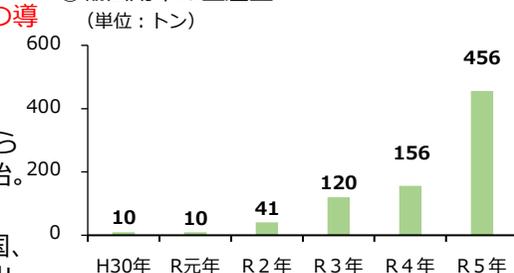
平成26年より、東京のおむすび店からのアメリカ出店の話を契機に輸出を開始。

【生産実績】

令和5年の生産量は456トンで、米国、フランス、シンガポール、台湾等に輸出。



○輸出用米の生産量



茨城県産米輸出推進協議会

【取組内容】

協議会のオブザーバーである^{いちば}㈱百笑市場では、「コメ新市場開拓等促進事業」も活用して、**多収性品種**（にじのきらめき、ハイブリッドとうごう3号）の**契約栽培を推進**。そのほか、**ドローンによる直播・病害虫防除等の省力・低コスト化の取組を推進**。

協議会の参加者（生産者）数が増加（H28年8人→R5年85人）。

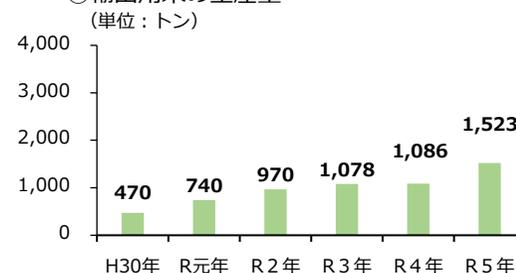


【生産実績】

令和5年の生産量は1,523トンで、米国、香港、シンガポール等に輸出。

※協議会の生産量のうち㈱百笑市場を通じた実績

○輸出用米の生産量



現地系外食・小売チェーン等への進出

- 輸出額の更なる増加に向けては、オールジャパンで、輸出先国・地域の市場調査、販路開拓等の取組を進めることにより、日系だけでなく現地系スーパー・レストランチェーンなど新たな市場を開拓する必要。
- 香港、シンガポール、アメリカなど各国・地域において、現地系外食・小売チェーン等に進出する事例も出ている。

〈進出事例の一部〉

(2024年7月時点)

コメ	パックご飯	米菓
----	-------	----

日本産米

- ・シンガポールで24店舗展開している台湾料理チェーンに対して、**台湾料理（チャーハン等）に合うコメの提案や炊き方提案**、使用後のきめ細やかな**フォローアップ**を実施。
- ・チャーハンに合うコメを提案したことで、**メニューの品質が向上**。また、多量のコメを消費する同チェーンに対して、試用期間中に欠かさずにコメを供給をし続けられたことも評価され、**日本産米の継続使用が実現**。



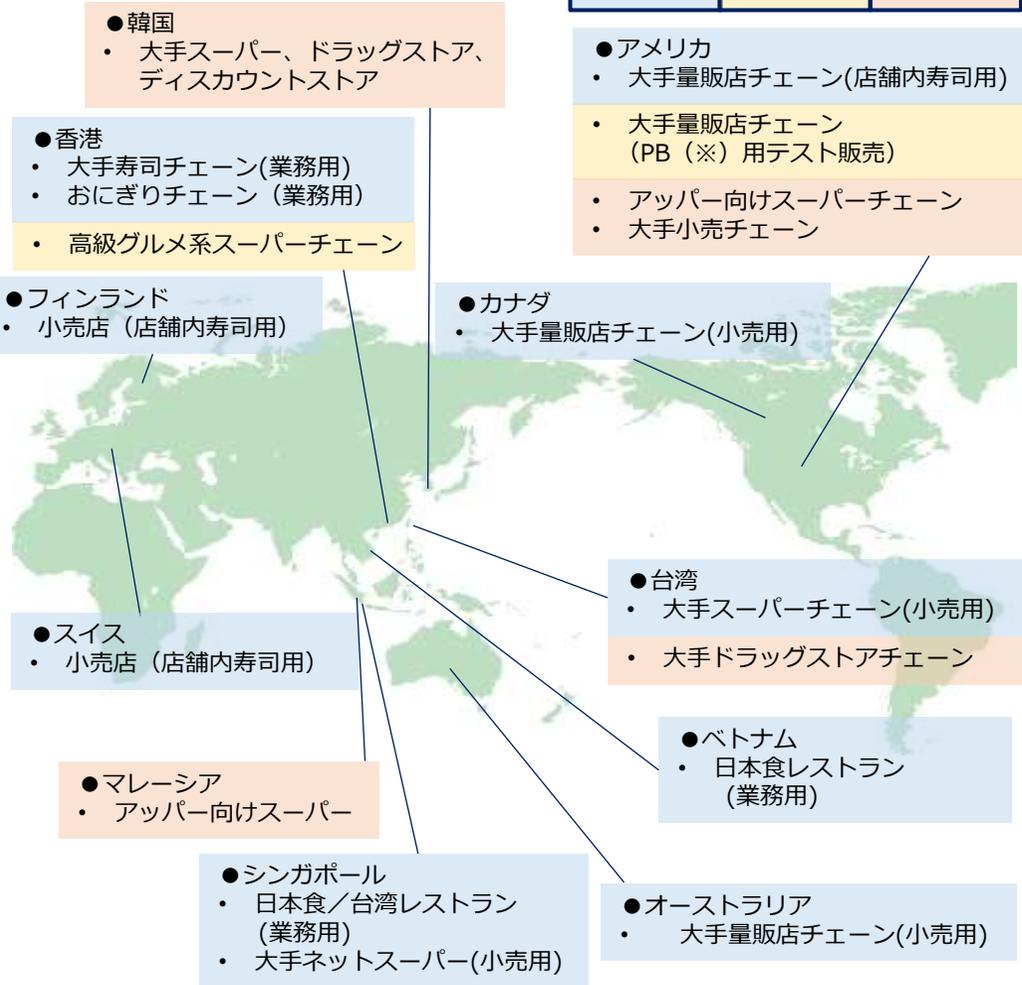
パックご飯

- ・アメリカ全土に展開する**現地系量販店と他業態で取引関係があったこと**をきっかけに、エリアを限定したPB商品としてテスト販売を実施する予定。定番商品化に向けて商談中。
- ・台湾においても、**同米系量販店のECサイトを足掛かりに、実店舗への進出**を計画中。



米菓

- ・消費者による日本製菓子の**SNS投稿がバイヤーの目にとまり、JETRO経由で紹介**を受けたことで、アメリカのテキサス州に展開する**現地系小売店のPB商品**としてテスト販売を実施。2023年10月から本格的に現地での販売を開始。
- ・日系小売店では日本風のパッケージにラベルを貼って対応することを求められるが、**英語のパッケージで子ども受けするポップなデザイン**にして、**現地系消費者に訴求**。

※“Private Brand”の略称。小売業者が商品を企画して、メーカーが生産した商品を全量買取して自社ブランドとして販売するビジネスモデル。

各国・地域で広がりを見せる「おにぎり」

- 日本産米で作ったおにぎりは、冷めてもやわらかさと粘りがあり、コメそのものの美味しさを伝えることが可能。
- おにぎりは、テイクアウトが可能で手軽に食べられ、外食に比べコストパフォーマンスも良いことから、近年、海外でも人気となっている。

(2025年1月時点)

(株) イワイ (アメリカ・フランス)

- アメリカ (NY、NJ) とフランス (パリ) におむすび専門店「おむすび権米衛」を展開。
- 玄米形態で輸出し現地店舗で精米することで、精米したてのコメを使ったおむすびを消費者へ提供。
- 国内外店舗を問わず、**店舗で使用される全てのコメを生産者と直接契約。**
- コロナ禍によるテイクアウト需要で売上げが増加。



(店舗数：4店舗)

百農社国際有限公司 (香港)

- 香港のオフィス、ショッピングモール、地下鉄駅構内等において、おむすび専門店「華御結」「OMUSUBI」を展開。
- コメは全て日本産を使用。品質の均一化・多店舗展開に対応するため、**おむすびは全て自社工場で製造。**
- 生産者とは**毎月1回ミーティング**を行い、ブランドコンセプトを共有。



(店舗数：150店舗)

(株) パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス (シンガポール・香港・マカオ・台湾・マレーシア・アメリカ)

- **DON DON DONKI**店内で、握りたてのおにぎりとお米を精米したてのコメを提供する日本産米専門店「**富田精米 (シンガポール・マレーシア・香港・マカオ・台湾)**」「**安田 (やすだ) 精米 (香港・台湾・アメリカ (ハワイ・グアム・カリフォルニア))**」を展開。
- おにぎりを食べてもらう**飲食業**と日本産米を買ってもらう**物販業**が併存する従来にない**ハイブリッド型**。
- **玄米輸出、現地精米**をすることで、鮮度の高い日本産米を提供。



(店舗数：22店舗)

KNT-CTホールディングス (株) (アメリカ)

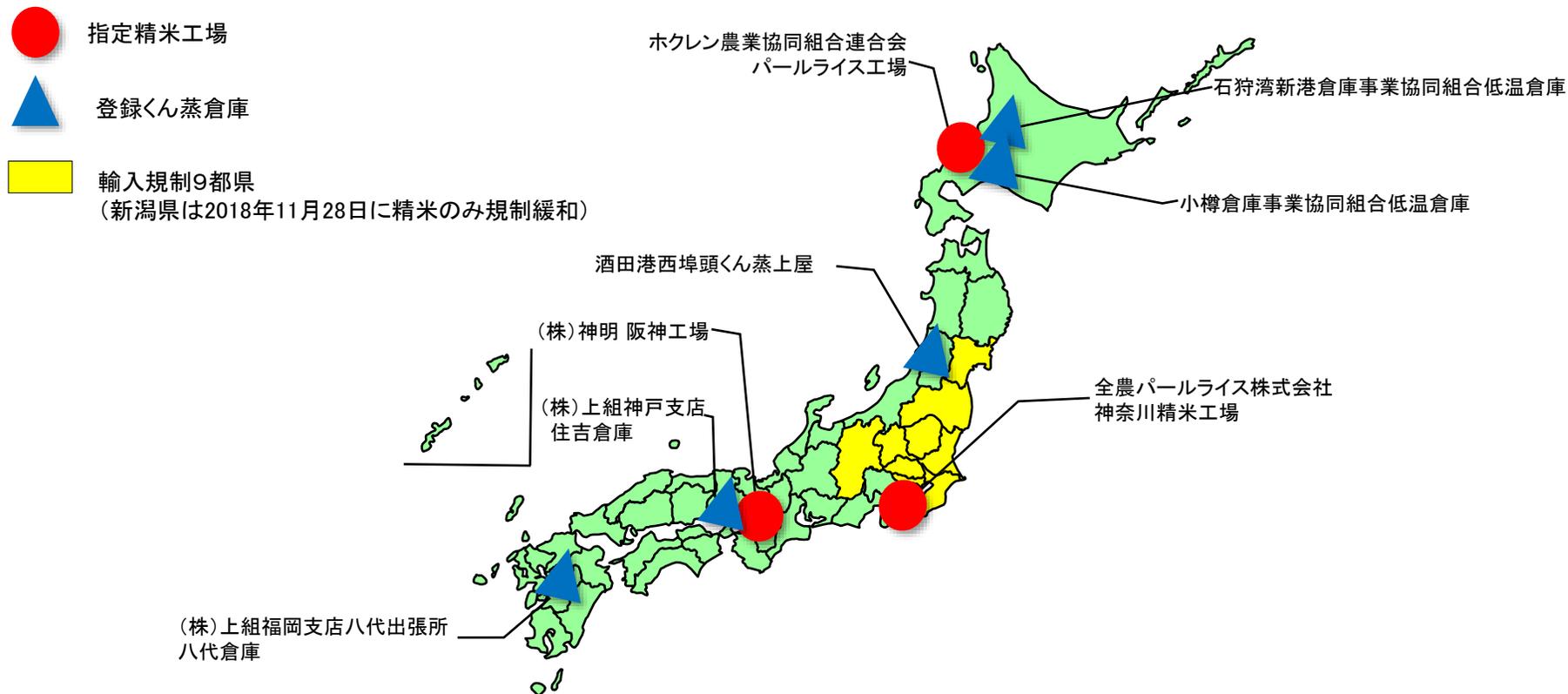
- 旅行会社として**日本の食材と日本産米の魅力**を海外へ向け発信し、地域創生を目指す「**コメイノベーション事業**」を開始。
- フードトラックでの、おにぎりのテスト販売を経て、「**ONIGIRI SUN**」をロサンゼルスにオープン。
- 玄米輸出、現地精米した日本産米で、**握りたてのおにぎり**を提供。具材には**鮭・明太子・昆布**等の定番に加え、**大豆ミートそぼろ**等、**ヴィーガン**にも対応。飲料にも日本発の**玄米デカフェ**を提供。



(店舗数：1店舗)

(参考) 中国向けコメ輸出の状況

- 中国向けに精米を輸出するためには、指定精米工場における精米及び登録くん蒸倉庫におけるくん蒸が必要。
- 現在、指定精米工場は3か所、登録くん蒸倉庫は5か所。(2018年5月の日中首脳会談後、精米工場2施設及びくん蒸倉庫5施設が追加。)
- また、福島第一原子力発電所事故により、9都県産米の輸出が停止。(2018年11月に、新潟県産の精米の規制のみ緩和。)



中国向け 精米輸出実績	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 (1~2月)
数量 (トン)	375	298	524	1,007	1,002	575	764	526	172	11
金額 (百万円)	163	97	211	363	321	219	262	170	64	8